

## 各国農業普及事情の比較分析 <その7>

### まとめ

本シリーズでは、これまで我々が業務で関わってきた各国の普及員や普及事情を①普及員・組織の「技術力」、②「農家との距離」③予算・人員・体制等の「組織力」、④試験場や民間など他組織との「連携力」、という切り口から事例を挙げて比較し、その相違点について議論してきた。今回の議論を振り返ると、取り上げたテーマの対象は大きく「普及員」という人材面と「普及局」という組織面に分けて考えることができる。

今回の議論では、普及員に求められる技術力は、現場の問題を探るための観察力、問題分析力、コミュニケーション能力といった総合的な現場力ともいえるものであり、それを研鑽するためには、現場の場数を踏むことが大切だと述べた（第2回 AAINews110号）。しかしながら、その現場力を磨くため、そして、現場で農家の信頼を得るためには「自信」となるちょっとした専門的な知識や技術を身に付けることも重要であることを指摘した（第3回 AAINews111号）。これらの議論を展開していくなかで気付いたことは、各国の普及員と「農家との距離」は国によって、一目置かれていたり、警戒されていたり、さまざまであったものの、「技術を学ぶことによって、自信を持って農家に行けるようになった」というエピソードはほぼすべての国で確認できた類似の事例であり、現場に出ることで普及員としての能力（現場力）が向上するという認識は共通であったのは興味深い。

普及局については、その組織力と外部との連携力について議論したが、これらについては行政機構とも関連することから、各国で大きく事情が異なっており、比較検討が難しかった。しかしながら、現場課題解決に即した普及計画策定の必要性や外部組織との連携が重要であることは共通していたと思われる。またその体制や機能を高めるために各プロジェクトが様々な工夫をしながら、取り組んできたことが各事例から明らかになった。

特に普及局という組織の枠にとらわれずに活動できるプロジェクトだからこそ、つなぐことができた組織間連携の事例も挙げられ、興味深かった。

さて、本シリーズを通じていくつかの事例を紹介してきたが、そもそも本シリーズは、各国の事情を横断的に比較分析することで、相違点を明らかにし、今後の「活動へのヒント」を探ることを目的とするところから始まった。実際に社会的背景や農業環境が異なる国々に普遍的に通用する「活動へのヒント」を提言するのは難しいことである。しかし、あえて提言するとすれば、以下のようにまとめることができる。

#### 普及能力強化に係る提言

- ・普及員（人材）の能力強化のために
- ・普及員が農家の信頼を得るために、本人の拠り所となる専門知識・技術を提供する。
- ・現場の問題を探るための観察力、分析力、コミュニケーション能力（現場力）を育てる。
- ・プロジェクト活動の中に普及員が実際の現場での普及活動を通して場数を踏む機会を組み込んでおく。

#### 普及局（組織）の機能強化のために

- ・現場課題解決に即した普及計画をボトムアップで策定する重要性を示す。
- ・プロジェクト実施側として、組織間、部署間の人的交流や連携を深めることを意識して活動を実施する。
- ・民間業者や援助機関と良好な関係を保ち、必要な情報をうまく活用できるような体制を整える。

今後のプロジェクトで普及に関わる際は、このような点に配慮することで、普及員（人材）と普及局（組織）の能力改善に取り組めるのではないだろうか考える。